

米子城跡

ガイドマップ

THE REMAINS OF
YONAGO CASTLE
GUIDEMAP



国指定史跡

米子城跡

空も山も海も街も
全部が一望できる場所

米子市の中心地

湊山に築かれた米子城は、

山頂に五重の天守閣と

四重の副天守閣（四重櫓）を持ち、

「山陰随一の名城」とも称される

壮麗な城であったといわれています。

現在、建物は失われていますが、

石垣などは

往時の姿をよくとどめており、

天守跡からは秀峰大山、

日本海、市街地、中海などが一望できます。

平成18年（2006年）に、

本丸、二の丸などが

国史跡に指定されました。

360度見渡せる！
米子の絶景ポイント

米子城の歴史

戦国時代の米子城は、室町時代、応仁の乱の頃(1467年~1487年)に山名宗之により砦として築かれたことに始まりと伝えられます。

石垣を備えた本格的な城は、戦国時代末期の天正19年(1591)頃西伯耆の領主となった吉川広家により、湊山に築城が開始されたといわれています。島根県安来市の月山富田城に入った広家は、交通の要衝である米子に着目し、大山を望み、中海を自然の堀とした湊山に近世的な石垣を持つ城の普請を始めました。

慶長5年(1600)の関ヶ原の戦後、吉川広家は岩国に転封となり、代わって伯耆18万石の領主として駿河から入った中村一忠により米子城は慶長7年(1602)頃に完成したと言われています。

その後、慶長14年(1609)に中村一忠が急死すると、慶長15年(1610)

0)に加藤貞泰(6万石)が美濃国から入城し、元和3年(1617)加藤氏が伊予・大洲に転封した後は、因幡・伯耆の領主池田光政の一族の池田由之が米子城預かり(3万2千石)となりました。寛永9年(1632)に池田光仲が岡山から因幡・伯耆の領主となると、家老・荒尾成利が米子城預かりとなり、以後、明治2年(1869)に藩庁へ引き渡されるまで、代々荒尾氏が城を預かり管理しました。

米子城の構造

米子城は、湊山頂上の天守(本丸)を中心に、北の内膳丸、東の采女丸(飯山)を出丸として、湊山ふもとに二の丸、三の丸、御船手(深浦)郭を配し、城郭中枢部は中海から水を引き込んだ内堀を廻らせて防衛していました。その外郭には外堀をめぐらし、内堀と外堀の間に武家屋敷を、外堀の外側に町人区を配していました。



「米子城修復願」(元禄3年(1690)年3月11日)鳥取県立博物館蔵

米子城関連年表

米子のまちは1467年応仁の乱の時、飯山に砦が築かれる以前に漁師町あるいは港町として成立していました。

米子飯山に山名宗之が砦を築く。

5月 尼子経久伯耆に侵入 米子城、淀江、尾高などの城を攻め落とす。

毛利元就の富田城攻め、因幡、伯耆へも進出。

富田城陥落。山陰地域は毛利支配下に入る。

尼子氏再興運動 尼子勝久山中幸盛因幡・伯耆へ侵入。

尼子勝久上月城で自刃 尼子氏滅ぶ。この頃の米子城番は古鬼吉種。

鳥取城陥落、秀吉が伯耆一円を支配。

秀吉と毛利輝元の和睦 八橋以西の伯耆三郡が毛利領となる。

吉川広家(吉川元春の三男)、吉川家の家督を継承。

吉川広家が秀吉から西伯耆、出雲、備後など12万石を認知され、富田城に入るが、居城を米子に変え、山県九左衛門を奉行として築城開始。

文禄・慶長の役(朝鮮出兵) 吉川広家従軍、古鬼吉種は朝鮮で討ち死(1592)。

慶長3年8月、秀吉死す。

吉川広家、富田城に帰り、湊山築城を監督、米子港、深浦港整備。

関ヶ原合戦 吉川広家西軍として出陣。吉川広家 周防国岩国(3万石)に転封、この頃城は7割方完成。

駿河国府中城主、中村一忠(18万石)が伯耆国領主となり尾高城に入る。

中村一忠、尾高城から完成した米子城に移る。

中村一忠、家老の横田内膳を暗殺(米子城騒動)。

中村一忠20歳にて死、中村家は断絶。

岐阜美濃国黒野城主加藤貞泰、伯耆国倉見・汗入郡6万石領主となり入国する。

大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ。幕府は一國一城令を發布するも、米子城は保存と決まる。

加藤貞泰、伊予国大洲に転封、因伯領主となった池田光政の一族、池田由之が米子城預かり(3万2千石)となる。

池田由之死亡、子由成が米子城主となる。

池田光仲、因伯支配(32万石)、家老荒尾成利が米子城預かりとなる。

四重櫓と石垣を鹿島家の負担により大修理。

明治維新。

朝廷より米子城返上の命令あり。

米子城山は士族小倉直人らに払い下げとなる。

城内の建物類は売却され、数年後取りこわされる。

明治6年(1873)

明治5年(1872)

明治2年(1869)

慶長15年(1610)

慶長14年(1609)

慶長8年(1603)

慶長7年(1602)

慶長5年(1600)

元和元年(1615)

元和4年(1618)

寛永9年(1632)

嘉永5年(1852)

慶応4年(1868)

明治2年(1869)

明治5年(1872)

明治6年(1873)

米子城跡 見所マップ

石垣のここ注目!

- い** 枡形の築石には鏡石や石垣の割方がわかる矢穴の残る築石があります。探してみよう!
- ろ** 内膳丸入口右側の石垣は継ぎ足して入り口を狭くしています。
- は** 内膳丸から遠見櫓に伸びる登り石垣は戦国時代終わりに作られた堅固な米子城の象徴!



1 内膳丸 (出丸)
丸山に築かれた郭で、城下町に細長くはりだしています。この郭から本丸に向けて登り石垣を築き、米子城の中海側の防衛線が設けられていました。

本丸の拡大図は次のページへ!



2 登り石垣
内膳丸から天守遠見櫓にかけて尾根を登るよう築かれています。



3 水手御門下の郭
平成27年度の発掘調査で見られた郭で、本丸南西中海側に張り出しています。



8 御船手郭 (深浦郭)
湊山の南山裾の中海深浦に面した郭で、船頭屋敷、船小屋などの施設が配置されていました。ここには深浦水軍が配備され、海上防備と共に城下町に入る船などを監視していました。



4 二の丸
湊山北裾の高石垣で囲われた二段の郭です。上段の郭には城主の御殿と武器庫、侍部屋等の重要な建物が置かれていました。



5 三の丸
飯山から、湊山、丸山の北側まで巡る、内堀で囲った広い郭で、番士詰所、作事方詰所、馬屋、米蔵などの施設や馬場もありました。



6 小原家長屋門
城下にあった荒尾家臣小原家の屋敷門を移築したものです。



7 枡形虎口
二の丸の入口、城兵の集合場所でもありました。



9 飯山 采女丸
飯山に築かれた郭です。高石垣で囲われた三段の郭で、二段目は帯郭状となっていました。



本丸から望む、市街地や、大山、中海、日本海の眺望は、今も多くの人々に親しまれています。

米子城跡 本丸



米子城跡の 魅力とは？

種類豊富な石垣

戦国時代の特色を残した城で、建物は失われましたが、石垣や礎石はそのまま残されています。このため、様々な時代の石垣を見ることができます。

変わりゆく景観

登城中に景観の移り変わりが実感できます。木立を抜けるとそびえる天守、歩くと石垣の見え方が変わっていきます。

天守跡からの眺め

天守からの360度のパノラマは最大の魅力です。「海を臨む天空の城」、城下町から見上げる壮大さと本丸から臨む城下町、大山、中海の眺望を満喫できます。



11 遠見櫓

眼下の中海の眺望と振り返るとそびえたつ天守は迫力があります。登り石垣はここに繋がっています。



10 番所跡

本丸の番所がありました。ここから枳形にむかって堅堀がのびています。

米子市HP **もっと知りたい！米子城**
米子城に関する各種イベント情報、シンポジウムなどの開催記録、広報よなごに連載中の「教えて！米子城」のバックナンバー、空から見る米子城、米子城跡や城下町に関するパンフレットやマップ、史跡米子城跡保存活用計画、フォトギャラリーなどの米子城にまつわるおもしろ情報満載のコンテンツです。



12 水手御門

天守西側中海側に張り出した郭から深浦側へ下る道に続きます。

12 水手御門

水手御門

15 本丸（天守台）

湊山山頂部に高石垣で囲われた郭で、天守郭、遠見郭、番所郭などから構成されています。天守郭には、天守、四重櫓の二つの天守が築かれていました。米子市街地、大山、中海、島根半島など360度のパノラマがひろがります。



15 天守台

天守台

13 鉄門跡

ここには、鉄板が打たれた門がありました。



内膳丸、二の丸、鉄門へ

10 番所跡

番所跡



14 四重櫓台

幕末に補修された切込接の石垣が天に聳えます。角に忘れ石があります。

9号線、深浦側へ

石垣のここに注目!

- に** 天守台の石垣は打込接、控え積の石垣は上段が平成、下段が昭和の積み直しです。
- ほ** 鉄門跡では四重櫓の石垣は、打込接が途中から幕末に改修された切込接の石垣に代わる見事な石工の技がみられます。
- へ** ここに残る矢穴のある「残念石」は、実は湊山のもともとの岩盤です。城山の岩を切り出して城を作ったことがよくわかります。一体なぜ、鉄門のそばに削り残したのでしょうか？
- と** 遠見櫓から登り石垣をのぞいてみよう！（高いので十分気をつけてください。）

米子城騒動

慶長8年(1603)、米子城内において主君中村一忠によって家老、横田内膳村詮が殺害される事件が起きました。これを「米子城騒動」といいます。

横田内膳村詮は中村一忠の家老で禄6千石を受け、米子城と城下18町と呼ばれる町並みを完成させた功労者だといわれています。米子の町づくり、伯耆一円に腕を振るいましたが、一忠側近のねたみを受け、慶長8年(1603)11月城中で誅殺されました。横田一族は一忠に戦いを挑みましたが、敗れて一族は自刃、滅亡しました。この米子城騒動については諸説ありますが、騒動から6年後の慶長14年(1609)に一忠は急死し、跡継ぎがなかったので所領は没収され、家は断絶となりました。



▲中村一忠墓地



▲横田内膳村詮の墓碑

一忠は、殉死した2人の小姓、垂井勘解由と服部若狭と共に中村家の菩提寺である感応寺(米子市祇園町)裏山に葬られ、3人の木像が安置されました。現在、感応寺裏手の墓所には「故伯耆守中村一忠公之墓」が建てられ、また昭和34年(1959)には五輪塔が建立されました。木像は現在、本堂に安置され、墓地と共に市指定史跡となっています。

妙興寺(米子市寺町)には横田内膳村詮の墓碑があり、画像と遺品の木杯が所蔵されています。

誅殺された横田内膳村詮の一族、一門、一党が陣をかまえる。



城主、中村一忠の加勢に、出雲松江藩主 堀尾吉晴の藩兵もかけつけたといわれる。

清洞寺跡

米子城築城の際、中海の沿岸にあった小島「亀島」を整備して船着場を作り富田城からの物資が船で運ばれたと言われていいます。現在湊公園内に「清洞寺跡」として残る岩と松がその亀島の名残です。

米子の2代城主加藤貞泰は父光泰の菩提を弔うため、この島に曹溪院を建て、供養の五輪塔を作り、元和3年(1617)池田由成が城主になると、由成は父母の供養のため、海禅寺を建立し2基の五輪塔を作りました。海禅寺はその後、禅源寺と改められ、宝永7年(1710)博労町に移された春寺となりました。

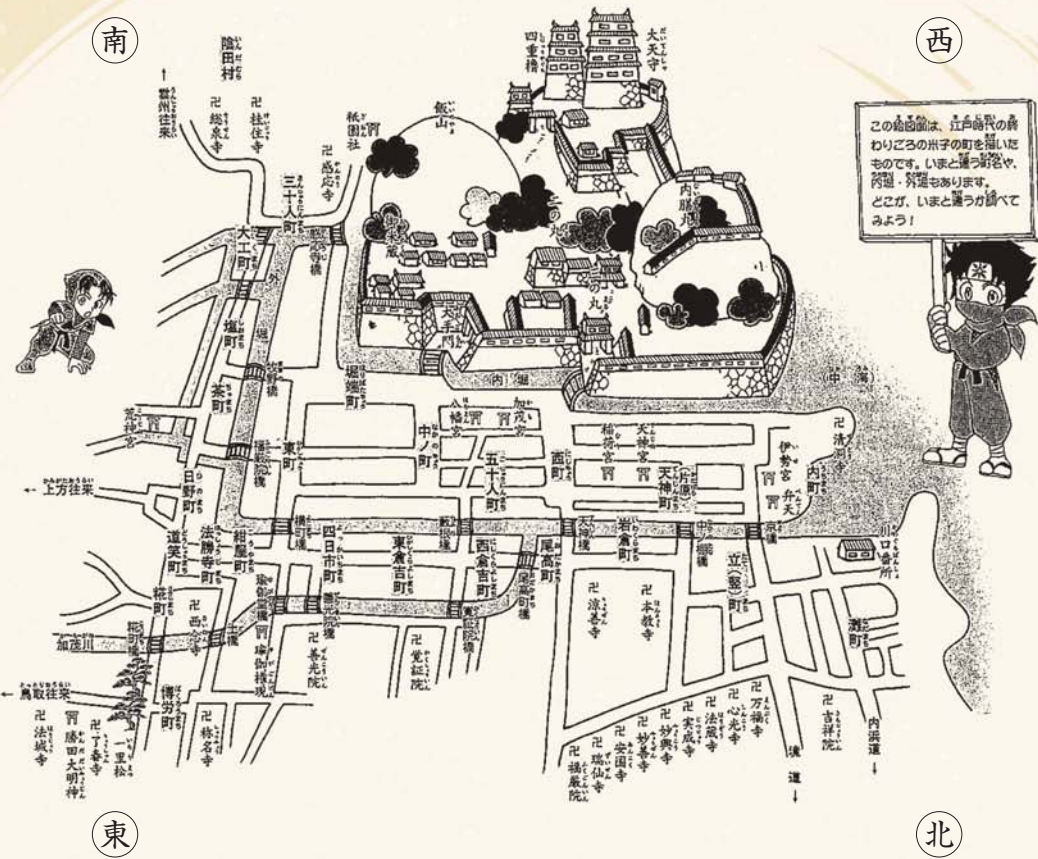
亀島にはその後、荒尾の家臣村河氏が江尾から清洞寺を移して菩提寺としたので、この島が清洞寺岩と呼ばれるようになりました。現在もこの岩の上には3基の来待石製の大型五輪塔が残っています。向かって右が加藤貞泰、中央と左が(左が父由之のもので中央は母のもの)由成が立てたものです。



▲清洞寺跡

米子城下町

米子城は、湊山頂上の天守を中心に、北の内膳丸、東の飯山を出丸として、中海から水を引き込んだ内堀と中海で取り囲まれた区画に様々な郭を配置し、さらに内堀をめぐらし、内堀と外堀の間に武家屋敷を、外堀の外側に町人区を配していました。米子城を中核として、内堀、外堀を中心に形成された城下町は、西伯耆の文化的、経済的中心として繁栄しました。この城下町や街道は、現在の米子のまちの基礎となっており、そのころの町割や小路などが今もまらのあちこちに残っています。



昔の面影を残す米子の城下町を散策 ゆっくり2時間コース!



1 藪根橋跡

外堀にかかる7つの橋(京橋、中ノ棚橋、天神橋、藪根橋、横町橋、福殿院橋、牧野橋)のひとつでした。



2 鉄砲小路

米子城の鉄砲足軽が住む五十人鉄砲町がこの小路の外堀を渡ったあたりにあったためついた小路名です。



3 覚証院小路、咲い地藏

松龍寺覚証院がここにあったためついた小路名です。時を知らせる太鼓がありました。



4 旧加茂川

この辺りは約200mの間に75もの小橋がかけられており、日本で一番多いとも言われています。



5 坂口邸裏通り

坂口家は、江戸時代木綿仲買業を営み、家業を発展させました。昭和天皇は昭和22年(1947)巡幸の際、坂口邸に宿泊されました。



6 新小路通り

寺町から尾高町にかけてはゆるく傾斜しています。これは古砂丘列のトップに寺町が形成されたからです。



7 寺町通り

福殿院、瑞仙寺、安国寺、妙善寺、妙興寺、実成寺、法蔵寺、心光寺、万福寺の9つの寺が並んでいます。城下町の防衛のために配したと言われています。



8 妙興寺

中村一忠の家老横田内膳は米子城下町の整備を行いました。慶長8年(1603)11月に暗殺されました。妙興寺には横田内膳の墓と遺品があります。



9 立町通り

米子城から北に伸びるこの通りには、多くの商家が立ち並び、弓ヶ浜方面への浜街道に通じていました。灘町と共に、江戸時代以前からの米子の町です。



米子城下町地図



National Historic Sites

The Remains of Yonago Castle, Castle in the Sky Commanding a fine view of Lake Nakaumi

Yonago Castle was originally constructed on the hill known as Minatoyama, located in what is now the central area of Yonago City. The castle was unique and magnificent in that, unlike other castles in Japan, it had two towers, a major one on top of the hill which had five stories, and a minor four-story one alongside the other. As such, it was referred to as “the finest castle in Sanin Area”; however, most of the structure is now gone, and only the remaining stone walls can still remind us of the castle’s former glory. In 2006, the remains of the Hon-maru, the donjon, and the Ni-no-maru, the secondary bailey, were designated as national historic sites.



History of Yonago Castle

During the Warring States Period, what was subsequently known as Yonago Castle had been constructed to serve as a small fort under the orders of Yamana Muneyuki from 1467 to 1487. It was not until around 1591 in the last years of the Warring States Period that the fort began to be renovated into a castle, with the surrounding stone walls in Minatoyama constructed under the command of Kikkawa Hiroie, lord of the western part of the Hoki area.

At that time, Hiroie’s main residence was Gassan Toda Castle, where Yasugi City in Shimane Prefecture is now, which served as the administrative center from which he ruled his territories that spanned over Izumo, western Hoki, and Oki. However, it was getting hard for him to rule from this location, so he focused on Yonago as a strategic hub that led to every territory of his. Thus, for the construction of his castle he chose the site of the Yonago Castle, which had Mt.Daisen as a natural shield, Lake Nakaumi as a natural moat, and state-of-the-art stone walls.

The construction did not go smoothly due to ongoing conflict, and by 1600, when the decisive Battle of Sekigahara ended the Warring States Period, Hiroie had only managed to finish 70% of it before being relocated to another domain. In 1602, the successor of Hiroie, Nakamura Kazutada took over the construction of Yonago Castle and finally completed it. Unfortunately, in 1609 Kazutada died a sudden death, thus ending the feudal bloodline of the Nakamura family. Afterwards, in 1610, Kato Sadayasu was put in charge of Yonago Castle, but shortly after that, in 1617, he was ordered to administer other domains, and was replaced by Ikeda Yoshiyuki.

In 1632, Ikeda Mitsunaka commanded his chief retainer, Arai Naritoshi to administer Yonago Castle; thereafter, the Arai family took charge of Yonago Castle for about 240 years until 1869 when the Meiji government established the prefectural system and abolished the traditional administration through feudal domains.

For details **P3**

STRUCTURES of Yonago Castle

The center of Yonago Castle was defended as follows: the donjon was located on the top of Minatoyama in the center, as well as Naizen-maru (named after Yokota “Naizen” Muraaki; “maru” usually means a compartment surrounded by stone walls) in the north, and Uneme-maru (on a hill called Iinoyama) in the east; the secondary bailey, the third one, and Ofunade (or Fukaura)-kuruwa were placed on the foot of Minatoyama; all the compartments were surrounded by an inner moat, the water of which was drawn from Lake Nakaumi; moreover, on the outside of the inner moat was a town of samurai residences surrounded by an outer moat, on the outside of which was a town of traders and artisans.

For details **P4**

城下町の町職たち。昔はどんな風に使われていたのかな？



10 京橋

京橋は米子城外堀にかかる最も古い橋で、橋の南側の袂は、藩からの色々なおふれを掲げる制札場にもなっていました。



11 後藤家住宅

後藤家は江戸時代の廻船問屋で、大型船を何隻も所有する豪商でした。主屋は正徳4年(1714)の建築と伝えられ、重要文化財です。



12 判屋船越家

船越家は江戸時代初期から船の出入りを管理する判屋を務め、寛永期(1624~44年)には船方の総支配をしていました。



13 鹿島家

西伯耆一の豪商だった鹿島家にある、米子城の鯨瓦は嘉永5年(1852)頃に四重櫓の改修を、藩命により肩代わりした功勞で下賜されたものです。



14 中ノ棚曲り

米子城下町は江戸時代以前の町を取り込みながら、新たに整備されました。その新旧の町の境目が、鍵形の曲がり角でわかります。



15 岩倉町、長田茶舗

倉吉から移住してきた方々で形成されました。長田茶舗は、明治元年の建築で、典型的な町家つくりです。



16 天神橋

旧天神橋は今の天神橋の下流に架っていましたが、昭和4年に今の場所にかけられました。付近には土蔵群が並んでいます。



17 尾高町、坂口合名ビル

坂口合名ビルは坂口家の中核会社の建物として昭和6年(1931)に建てられました。



18 西倉吉町、加茂川橋

尾高町から西倉吉町にかかる加茂川橋は、水管橋で市指定文化財になっています。



● 米子市立山陰歴史館

四重櫓の鯨や米子城天守の模型など、米子城にまつわる歴史資料をはじめ、民俗資料など米子の歴史を物語る様々な資料を展示しています。



入館料 常設展無料
企画展・特別展は別途

開館時間 9:30~18:00
(入館は17:30まで)

休館日 毎週火曜日または
祝日の翌日
12/29~1/3

所在地 鳥取県米子市中町20
TEL 0859-22-7161
FAX 0859-22-7160

Email saninrekishikan@dear.ne.jp
HP <http://yonagobunka.net/rekishi/>

米子城跡へのアクセス



- タクシー・バスで—— 米子鬼太郎空港……→ 米子城跡 (約25分)
- 境線で—— 米子空港駅……→ 米子駅 (約12分)
- お車で—— 山陰道米子中ICより約10分 (湊山公園駐車場)



米子城跡まで

- 米子駅から枳形入口まで徒歩約15分
- 市内循環バス (だんだんバス・150円) で「湊山公園」下車、徒歩5分
- お車で「米子駅」より約5分 湊山公園無料駐車場をご利用ください。登り口から山頂の天守まで20分ほどかかります。

制作・問合せ

米子市教育委員会文化課 〒683-8686 鳥取県米子市東町161番地2
TEL 0859-23-5438 FAX 0859-23-5414 Email bunka@city.yonago.lg.jp

(2018年2月)